

佐藤屋邸について

佐藤屋初代権左衛門（1752-1822）は羽州米沢より安永年間（1772-1780）須藤屋幸助の代に大河原須藤屋に奉公した後に独立。その後須藤屋の勧めで、山形県米沢の出身であったことから屋号を「山米（ヤマコメ）」とする。

四代目源三郎（1829-89）は味噌醤油醸造業や呉服商を営むなど、佐藤屋の経営を大きく発展させた。五代目源三郎は経営活動の一方、大河原町議員や郵便局長などの要職を歴任。さらに六代目源助（1866-1905）と協力した農事改良や、東北本線誘致活動への投資、教育・福祉・文化といった公益活動への寄附を積極的に行い、地域の振興に尽力した。

現在の佐藤屋邸には、そのシンボルともいえる明治期に建築された店蔵、新座敷、七代目源三郎（1901-1970）が新築した住居であり社交の場でもあった邸宅（1939 昭和 14 年竣工）、旧仙台藩職人の手によると伝わる屋敷神、その隣に第二次世界大戦中に建築された奉安殿がある。邸宅と奉安殿の設計は東北大学教授で、戦災で焼失した伊達家墓所瑞鳳殿再建の設計者でもある小倉強（1896-1980）による。



七代目 佐藤 源三郎 1901（明治 34）-1970（昭和 45）